

ハイブリッド工法・短冊ガラス工法

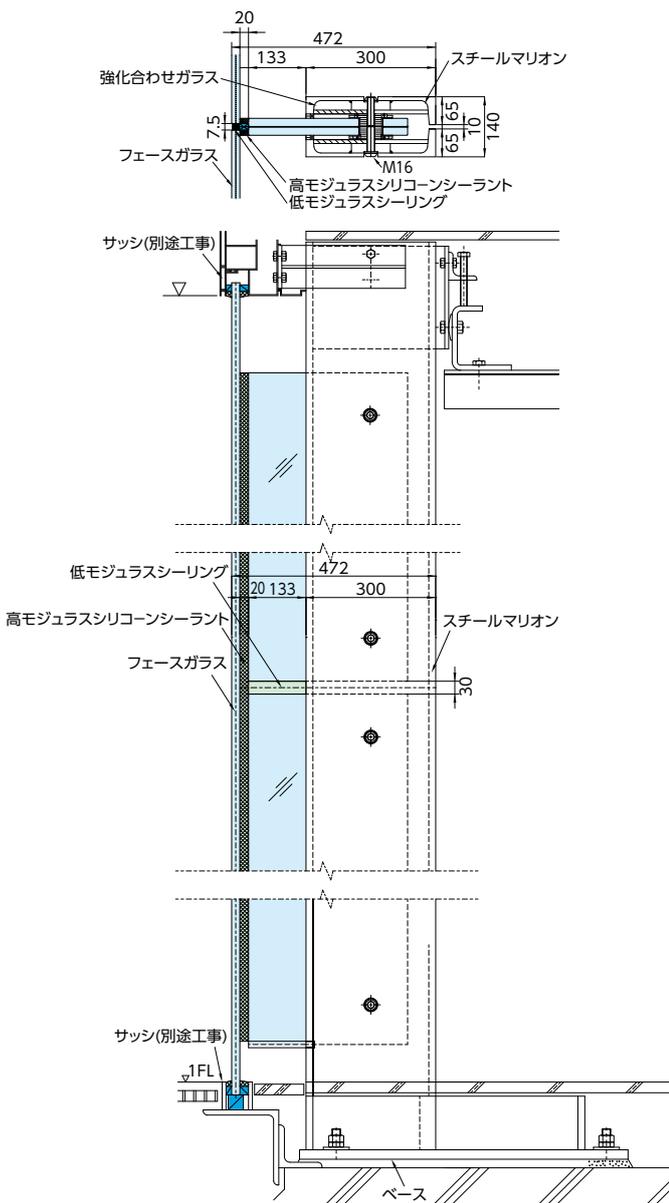
ハイブリッド工法、短冊ガラス工法は、ガラススタビライザー工法で多くの実績を積み、信頼性の高いシリコン系シーリング材による板ガラス同士の接着性と、鋼材の高い曲げ性能をあわせもつ新しい工法です。

方立に鋼材を用いることにより、ガラススタビライザーよりも方立幅を短くすることができ、室内の空間を大きくとりながら、外部はガラススタビライザー工法同様の大きく平坦なファサードを構成することができます。

■ ハイブリッド工法

方立となる2枚の鋼材の間に、強化ガラスを特殊ボルトによって固定し、フェースプレートとの接合部をシーリング材によって固定し、風圧力を支持します。(図13参照)

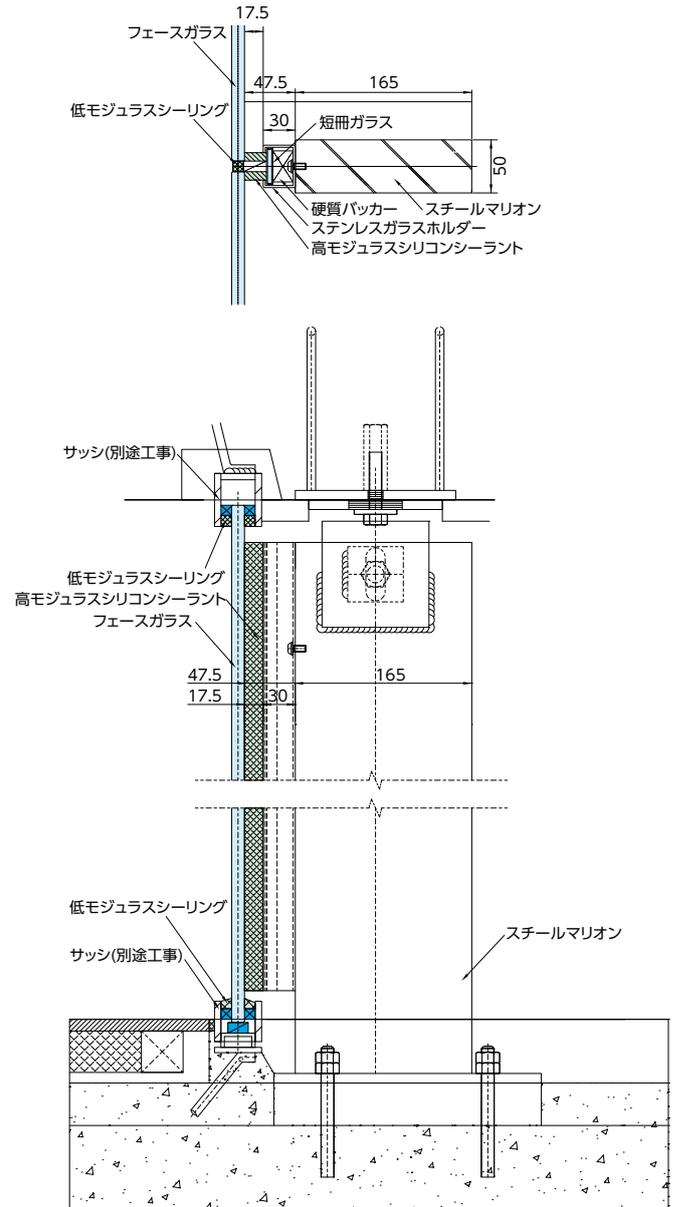
図13 ハイブリッド工法断面図



■ 短冊ガラス工法

方立となる鋼材の小口に、金属ホルダーに仕込んだ短冊状のフロート板ガラスを固定し、フェースプレートとの接合部をシーリング材によって固定し、風圧力を支持します。(図14参照)

図14 短冊ガラス工法断面図(例)



■ ご採用に際して

- ① フェースプレートの板厚や目地の設計については、ガラススタビライザー工法に準じます。
- ② 金属方立の断面や仕口の設計、方立側に使用されるガラスの品種や納まりなどについては、個々の設計が必要となります。弊社または販売会社までご相談ください。



メンテナンス上のご注意

ハイブリッド工法、短冊ガラス工法ともに、ガラススタビライザー工法と同様に、突付け目地部のシーリング材の接着強度と材料強度が保たれていることが必要です。当工法をご採用の場合、安全性を考慮して定期的にシーリング材の状態を点検し、不具合を発見した時には速やかにシーリング材のメンテナンスを行ってください。

■ハイブリッド工法



パシフィックセンチュリープレイス丸の内(東京・千代田区)

■短冊ガラス工法



SSJ品川ビル(東京・港区)